

新芽の芽吹く木々の枝から、小鳥のさえずりが賑やかに聞こえ、春の訪れの喜びを感じる季節となりました。

2021 年度の北埼玉の交流は、緊急事態宣言やまん延防止措置が長引いている影響もあり、昨年同様なかなか思うように活動できない状況が続いています。8 月にはデルタ株により、1 月～3 月にはオミクロン株の感染拡大によりクラスターが発生してクラス休園を余儀なくされるところも、数園ありました。

そのような状況の中でも学びを止めず、子どもたちのために“なにができるか”“どうしたらできるのか”を模索・工夫し少数園での交流やリモートでの年齢別部会、政策部会、保育者学校など行っています。

また、感染状況が一時的におさまっていた 11 月に感染対策をした上で今年度初めての合同リズムを第 2 さくらの園庭で行い、交流しました。当日は 12 月目前でしたが天気にも恵まれ、参加園 7 園 119 名の子どもたちが初めて出会う仲間との交流に刺激を沢山もらい瞳を輝かせて楽しみました。

コロナ禍であっても“他園と交流したい”という思いで知恵を出し合い対策を考え、保護者の理解を得て、仲間と一堂に会することができた喜びは何より嬉しく胸が熱くなりました。残念ながらコロナ対策のため参加できない園も 4 園ありましたが、またいつか全園で合同リズムができる日を願っています。

—合同リズムの感想—

・澄みきった空の下、7 園の年長の仲間が集まり今年度初めての合同リズムが行えたことが何より嬉しかったです。

子どもたちは合同リズムのことを話した時からずっと楽しみにしていて、スーホのうたや山の子、オッペルのうたを覚えたり、前日には「明日、合同リズムだから編み直そうかな」と言って縄跳びを編み直す子がいました。子どもも大人もそれだけ楽しみにしていました。

集まったあとで誕生月ごとに、しかも「自分と違う園の子と隣に座ってね」と言われた子どもたちは、自分で考えて他園の子と隣同士になる子、最初は同じ園の子にく

っついてウロウロしていたけどモジモジしながら違う園の子の隣に座ることが出来た子、2、3 月生まれはさくらんぼだけで 5 人もいたのにそれぞれ分かれて座ることが出来ていた姿が見られました。いつもと違う光景が新鮮で、子どもにとっては程良い緊張を味わえたのと、頭で考え行動する経験ができたのが良かったと思います。

リズムが始まると、同じ月の同じ園の子とすれ違う度に、はにかみ合いのびやかにリズムをする姿があり、リズムを楽しんでいるのが分かりました。最後にみんなで顔を見合いながら歌えたのがとても気持ちよく、あの空気はやはり自園だけでは味わえないと思います。



合同リズムで他の園の子どもたちの姿を見ることでそれぞれの子どもの育ちを感じ、子どももまた仲間の良さを感じることができたのではないのでしょうか。私自身初めての年長担任、合同リズムは貴重な体験となりました。
(さくらんぼ保育園担任)

・2 回目の年長担任です。6 年前の年長担任の時の交流リズムの思い出があり、交流することによって子どもたちも私自身もたくさん刺激をもらえたと考えるととても残念で、コロナ禍によって断念せざ

るを得ない状況で仕方ないと思っていましたが、思いがけずの計画に私も子どもたちもとても楽しみにしていました。前夜にも久しぶりに対面での5歳児部会があったことによって、それぞれの園の様子や担任の思いを聞いていたので、より子どもたちの実際の姿と重ね合わせて学べるものがありました。

子どもたちにとっては初めての交流、そして初めて、共に生活する仲間とではない同じ生まれ月の他園の子どもたちとのリズムに、自園の子どもたちも含めてどうなるのだろう？と思っていましたが、進行の大島さんの子どもたちを受け止め、尊重する対応に導かれるように、不安を感じながらも自分で考えて動き出す姿に、初めてといえども年長としての子どもたちの育ちが感じられました。

園内では、人前に出ることに緊張してしまう子ども、自分の生まれ月で呼ばれると「行ってくるね！！」とサッと行動し、周りの子ども「がんばって！」と声を掛け合う姿や、第二さくらの気持ちよい園庭でのびやかに、緊張しながらも楽しんでリズムをしていました。「かけっこ」では自分の番での精一杯はもちろん、いつも仲間のことをそれほど気にしているようには見えない子までも自園の仲間を見つけては一生懸命応援する姿がとても嬉しかったです。最後のうたでは、前園長の小河さんの語りといらなさんの馬頭琴演奏により心に残った「スーホの白い馬」の全曲を歌え、17人がよく集中して歌っている姿に感動しました。帰りのバスでは、「もっとリズムしたかったなあ！」「綱引きもしたかったよね！」などと気持ちが高まり、色々な話が飛び交い、とても名残惜しそうでした。大勢の中で17人ひとり一人の子どもたちの姿から、これからの保育の見通しや自分自身の課題も見つかりとてもありがたい交流でした。このような機会がもう一度持てるといいなと思っています。

(くわの実保育園担任)



・今年の夏、陽性者が驚くほどの数が出て園の関係者も陽性になり、あわや休園かと・・・交流は諦めていました。保護者の中には交流に参加させたくないという人もいました。

園長会の時、「子どもたちにとってどうなの。園としてはどうなの」と意見をもらい、職員会議でも「今を逃すと交流できない」「園として交流したい、やらせてください。その思いをぶつけてみよう。」と職員たちに後押しされました。何より担任二人の「交流したい」の思いが決め手となりました。

職員の思いが伝わったのか「交流させないで。」と言っていた保護者も「リズムの時だけマスクを外してもらい、後はマスクをしていれば参加します」と全員で参加できました。本当に嬉しい交流となりました。私たちの園は職員、保護者の理解・協力で参加できましたが、色々な事情で参加できない園もあり、早く全員が一緒に集まり、喜び合いたいと改めて思いました。

(ゆずの木保育園園長)

年齢別部会（北埼玉保問研）

一時的に感染が落ち着いていた秋頃、各年齢別部会を対面で行うことができました。0歳児部会では離乳食の持ち寄りの時、人数制限をして保育士と給食の方が集まり直接交流ができました。

味見はできませんでしたが、割り箸や手袋を用意し素材のかたさを確かめたり、食材の切り方・大きさ、各園で使っている食器・スプーンを見たり、アレルギー児の対応について交流できました。

☆リモートでの部会は、各年齢別部会の参加者が集まりやすい時間帯を部会ごとに決めています。例えば

- ・13:00～
- ・13:30～
- ・17:30～などです。大体一回1時間半～2時間行っています。

